

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	①「決定した進路への満足度」47.5%（平成28年度）を3年後80%に ②国公立大学と難関私大合格者数 合計62名（平成28年度）を3年後合計100名以上に ③卒業時のアンケート「探究学習を通じて成長できた」肯定率80%
計画名	未来を拓く・世界とつながるHANAZONO探究プロジェクト

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 英語教育、国際理解教育の一層の充実</p> <p>(1) 国際教養科の取組みを発展させ、両学科ともに英語教育の充実をはかる</p> <p>ウ 各種の行事を英語学習の動機づけに活用すると共に、英語を発信する機会を増やし、その力を強化する。</p> <p>(2) 様々な国際理解教育の機会づくり</p> <p>ア 幼小中・他校との連携を視野に入れた英語・国際理解関連行事の推進</p> <p>2 すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援</p> <p>(2) キャリア形成の段階的支援</p> <p>イ 花園キャリアプランに基づき、すべての教育活動を通じて、考える力・発信する力・協同する力を育み、最後までやり抜く力を身に付けさせる。</p> <p>ウ 探求的な活動を通じて、未知なるものに果敢に挑戦し、意見の交換・調整を通して仲間とともに課題を解決する力をつけ、自尊感情を高め、予測不能な21世紀社会を生き抜く力を育む</p>
事業目標	<p>授業や学力向上の取組み（講習・学力考査等）に加えて、学校・地域・外部機関と連携した取組みを探求的な学習やフィールドワークも含めた様々な形態で行うことにより、学習への動機づけを行い、自らの進路を切り拓く力をつけ、希望する進路の実現を可能にする。また、「総合的な探究の時間」への準備段階と位置づけ、「探求」から「探究」への深化をめざした教職員の指導力向上もねらいとする。</p> <p>（めざす学校像「生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校」を実践）</p>
整備した 設備・物品（数量）	・ビデオカメラおよび周辺機器 ・iPad 50台 ・模造紙 ・付箋
取組みの 主担・実施者	<p>・主担：ビジョンチーム（首席・進路指導部長・各学年進路・教務）*ビジョン：総合的な学習の時間</p> <p>・実施者：各学年 全教職員</p> <p>・連携先：香川大学 大阪市立大学 大阪府立大学 NPO法人COCOルーム 東大阪ブランド推進機構 イオントップバリュ NPO法人東大阪子育て支援コロボックル</p>
本年度の 取組内容	<p>①1年探求学習（企業探究コース）「総合的な学習の時間」等17時間実施 校内発表会実施 ケストアップ全国大会に1チームが選出され、東京での大会に参加 模造紙・付箋を使いグループでアイデアを検討 ビデオで記録に残す。</p> <p>②「HANAZONO進路探究プログラム」試行 6月と11月に実施 参加生徒のべ321名 フェアトレードや釜ヶ崎のFWや、大阪市立大学の学生との交流等学校外での活動によって生徒の視野が広がった。ラグビーW杯の取組みが2学期後半から始まり、ビデオカメラやiPadを使って、地域の商店街でのFW等を行ったり、東大阪市と地域の集まりの場でプレゼンテーションを実施。</p> <p>③小論文・面接講座の実施（計2回実施）志望動機を深めたり、AO入試等へチャレンジする生徒が増えた。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>①生徒アンケート「進路決定に役立った」肯定率70% 「決定した進路への満足度」55%（H28 47.5%）</p> <p>②「HANAZONO進路探究プログラム」参加生徒数 60名以上 生徒アンケート「参加して役立った」肯定率70%</p> <p>③プレゼンテーション等発表会の実施 生徒アンケート「探究学習を通じて成長できた」肯定率60%</p>
自己評価	<p>①生徒アンケート「進路決定に役立った」肯定率77%（○） 「決定した進路への満足度」47.1%（△）：3年生にとっては、今年度始めた取組みのため、6月の「HANAZONO進路探究プログラム」と7月・8月の小論文・面接講座のみであったため、全体へ浸透してはいなかった。ただ、想像以上に参加した生徒の取組姿勢はよく、また事後のアンケートでも「こんな取組みを1年の時からやってほしかった」などの声もあり、この取組みを進める意義を感じることができた。「決定した進路への満足度」については、大学の定員厳格化の影響が大きかった。例年に比べ、浪人を選ぶ生徒が増えていることもそのことを物語っている。ただ、関関同立や近畿・龍谷等は、昨年度に比べて1クラス減にもかかわらず、昨年度と同数あるいは上回っていることから、生徒は健闘したといえよう。</p> <p>②「HANAZONO進路探究プログラム」参加生徒数 321名（◎） 生徒アンケート「参加して役立った」肯定率77%（○）生徒の反応・満足度は非常に大きかった。次年度は、ガイダンスを充実させ、進路を考えるきっかけとしてより機能させたい。</p> <p>③プレゼンテーション等発表会の実施 生徒アンケート「探究学習を通じて成長できた」肯定率88%（◎）1年生の取組姿勢はよく、発表会も生徒が進行し、有意義なものとなった。全国大会出場や、東大阪市や地域の集まりでのプレゼンテーション等、生徒の成長の場となった。</p>
次年度に向けて	<p>①キャリア形成支援の一環として行っていることを全職員が理解し、1年次から生徒にうまく働きかけることをやっていかなければならない。そのために、進路指導部とビジョンチームと学年の連携を強化し、全体（教職員にも生徒にも）への発信を丁寧にしていく必要がある。その取組を「なんのために」「どんなアプローチで」「いつまでに」行うのかをまず教職員が共通理解し、生徒に伝えることのできる体制づくりが次年度の課題である。</p> <p>②「HANAZONO進路探究プログラム」は、進路を考える動機となるようさらに工夫がいる。次年度実施に向けて、ガイダンスの充実が急務である。</p> <p>③探究の取組みは、教師が講義・指示して行うものではなく、ファシリテーターの役割を担う。そのための技術・知識を少しずつでも身に付けて行けるような仕組みが必要である。研修だけでなく、取組みを進めながら、学んでいく体制が必要である。次年度はその環境を整えることも必要である。</p>